

(2009. 02. 19の研究フォーラムで使用した画像です。都合により一部未掲載となっています)

福井経済にみる国際化の遺伝子

福井県立大学地域経済研究所
奥山秀範

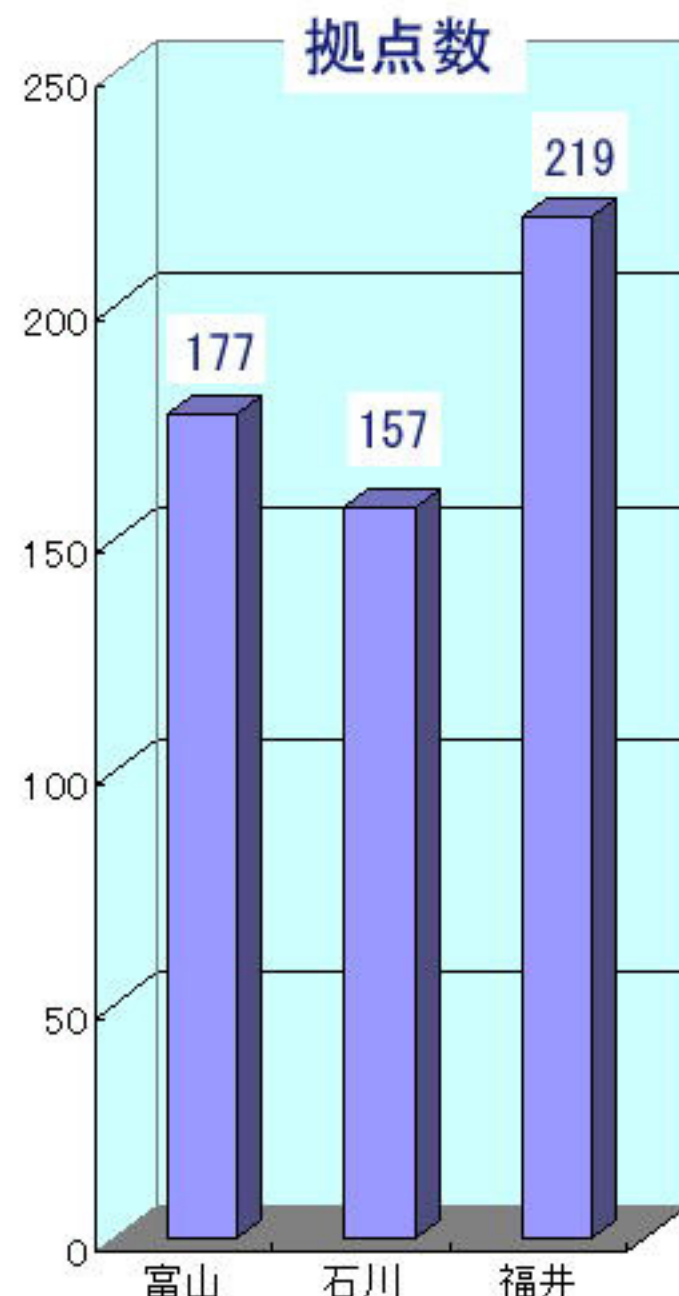
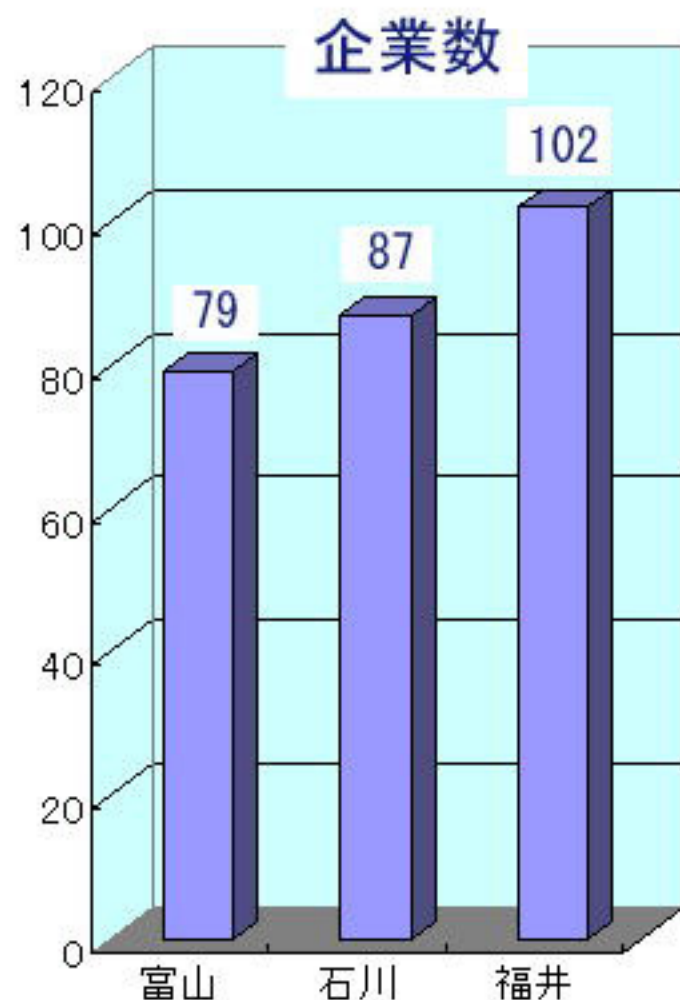


大正期福井商工会議所



大正期福井県織物会館

北陸3県の海外進出状況



富山県の進出拠点数はYKK㈱分を調整

「北陸三県企業の海外進出調査」(北陸環日本海経済交流促進協議会『ワームトピック』(平成18年7月号)21ページ参照。

富山県企業の海外事業所調査」(財)とやま国際センター、「石川県内企業向けアンケート調査」ジェトロ金沢貿易情報センター、

「福井県海外進出状況調査」福井商工会議所を参照

村野文次郎



一 歐米絹織物狀況視察報告

農商務省商工局臨時報告

第一冊

歐米絹織物狀況視察報告

村野文次郎

第一 羽二重ノ需用ト供給トノ關係

日本羽二重ハ歐米各國都鄙一般ニ流行スレトモ米國ニ於テハ支那絹僅少ニシテ我カ羽二重ノ占有ト云テ可ナラゾカ

歐洲各國ニ於テハ支那絹大半ヲ占メ我カ羽二重ト畧ホ價格ヲ均フシ恐ルヘキ大敵ナリ

歐洲ヘ向ケ輸出スル我羽二重ノ大半ハ佛國馬耳塞港ヨリ里昂ヘ入り全所ニ於テ仕上ケノ後歐米各國ヘ再輸出スルモノナリ

里昂商工會議所ニ至リ取調ヘタルニ全市ヘ日本羽二重ノ入ル高ハ一千八百九十五年即チ我明治二十年ニ於テ拾貳萬基即チ參萬貳千貫匁ナリ支那絹ハ拾五萬五千基即チ四萬千貳百參拾貫匁ニシテ凡ソ發割高ノ多キヲ占ム

是ニ由テ之ヲ觀レハ羽二重ノ製造タルヤ價格ヲ低廉ニシ而シテ濫造スルコトナクハ時トシテ流行ニ伴レ供給ノ度合ヲ失スルアルモ決シテ需用ノ途ヲ塞クノ患ナシ

第二 羽二重ノ用途

羽二重ノ用途ハ最モ廣シ平地ハ主トシテ手巾トナセトモ精製ナルモノハ種々染色シ形ヲ置キ婦人ノ

高力直寛と

森山機業場



横井小楠

幕末福井藩の重商主義政策を推進



← 誕生地（熊本）

暗殺地→
（京・丸太町寺町）



三宅丞四郎

天保3年生まれ
福井藩物産総会所肆長
三宅機業場経営

瑞源寺の機業碑





石川屋跡現況
(現横浜開港資料館)



石川屋（横浜）
橋本玉蘭齋編集・画
『横浜開港見聞誌1-6編』（文久～慶応年間）

緑川祐之進

福井博覧会道しるべ(明治10年)



1873 ウィーン万博



1878 パリ万博



1876 京都博覧会(明治9)



等各欠ク可ラサルノ品タリ次ニ一見ノ唾津ヲ流スヘキ者ハ金
澤製往古ヨリノ名産例ノ御所落雁森下森ハノ製品ト云フナリ。
時ニ首ヲ擧グレハ扁額數十枚「ナガレサン」「ワレントン」ノ諸聚
傑ヨリ浪花ノ別呈房鶴女、其他月夜ノ寫真全國燈明臺ノ真景等
寫中ノ最モナルモノナリ、其右ニ列スル文鱗子草岸聚賢ノ筆意
真ニ迫リ下手ノ蘭芋的山水ニ優ルヲ萬々、次ニ福井翠川裕之進
製ノ奉書細七子織等頗ル精巧ヲ極メダリ曾テ澳國ニ於テ壹等

明治十年五月廿二日御届
全 廿三日出版

石川縣士族

著者兼出版人

山本

晋

全 平民

販賣人

岡崎左喜介

全 第十一區二小區
全 照手町三十九番宅

越前國第二大區三小區
福井市安土町五十五番宅

諸 新平

六八

絹織物業	足羽上町 諸新平 電話一六四
絹織物業	綠町 前川久嘉
絹織物業	千年町 生田庄太郎 電話三四九
絹織物業	若松町 吉井初吉
絹織物業	九十九町 河北甚吉 電話六〇八
絹織物業	佐久良下町 山口喜平 電話一三一
絹織物業	佐佳枝上町 藤川喜右衛門
絹織物業	佐佳枝上町 浪花庄次郎
絹羽二重平綾羽二重 ハンカチーフ	佐佳枝中町 内田清 電話八〇六 一三二
絹織物業	佐佳枝下町 河島傳藏

九十九橋

久保町通り

足 羽 河 原

九 十 九 橋 南 詰

アサヒバー	ピリ軒	近藤馬子所	竹村旅館	角上	戸田	竹内空	山岸製材	野村空
大黒屋				堀見		北野徳松		
牛若餅					西山	花山水工所		
大谷印刷			大建や	光川	伊吹鉄工所	黒田		
丸永雑貨			小川					
久喜津屋								

北電出張所	平沢医院	大久保理髪店	小倉金物店	鈴木タクミ	長谷川医院	福井興橋南支店	上田五兵衛	加藤宿や	中川メタヤ	高田道具店	大井ラヂオ店	よすや呉服店	諸新平	荒木酒ヤ	茗谷カクチヤ	北野	奥
-------	------	--------	-------	-------	-------	---------	-------	------	-------	-------	--------	--------	-----	------	--------	----	---

石 場 下 通

河まき菓子店	山田蒸物ヤ	三浦ヤ宿ヤ	水野時計店	三井ヤ砂糖店	岩本道具ヤ	福富旅館	板倉小間物
--------	-------	-------	-------	--------	-------	------	-------

石 場 上

カ田菓子店	岩堀機業所	林アミ	柴田硝子店	出口菓子ヤ	竹下魚ヤ
-------	-------	-----	-------	-------	------

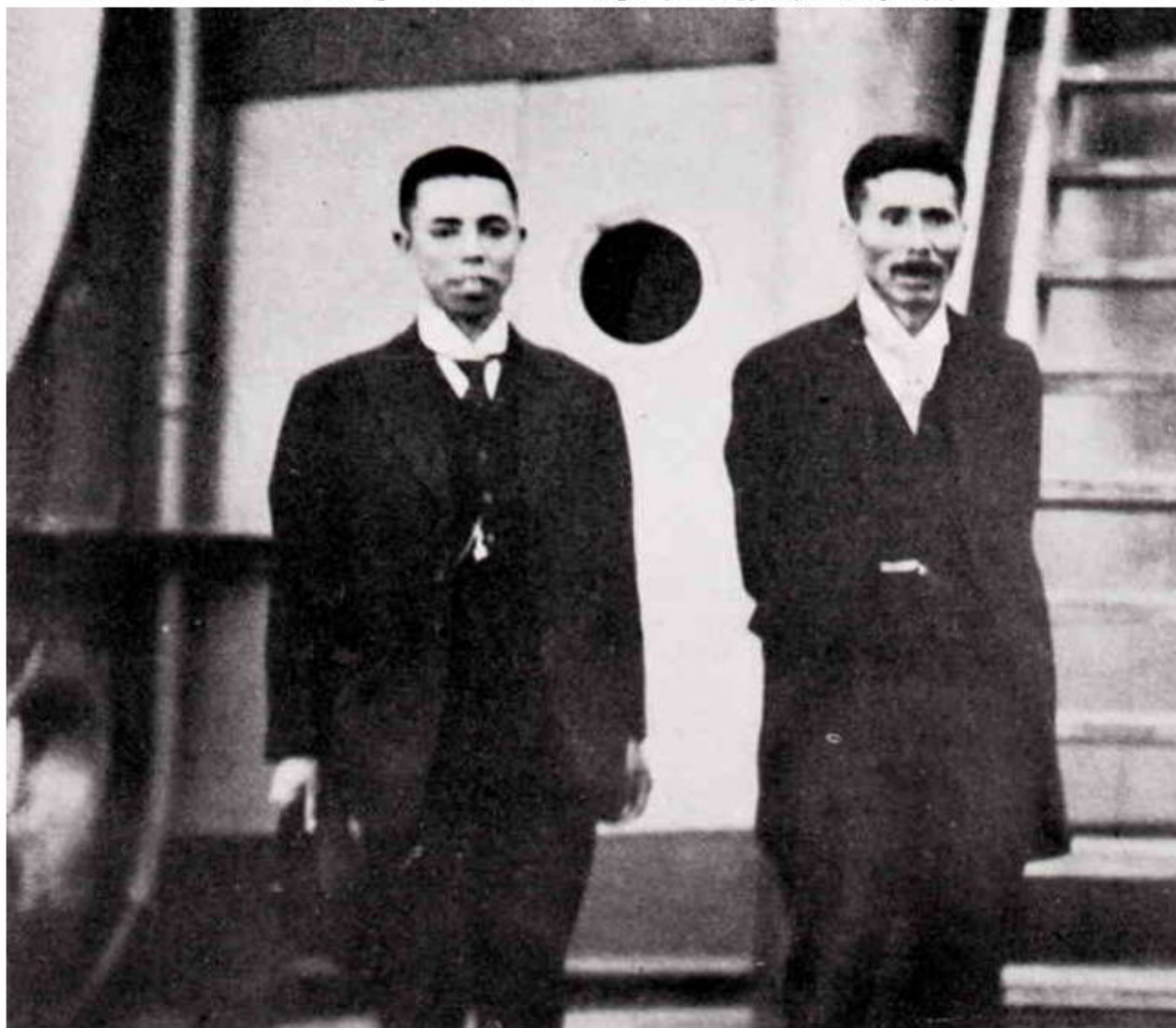
松原栄 と 岡田源吉



松井文太郎



西野とともに海外出張する松井



衆議院議員、商工会議所会頭、織物組合組長として強力なリーダーシップを発揮した松井

安本吉次郎



坪川信一



商工会議所書記長退任後、だるま屋を創立し
福井商業に変革をもたらした

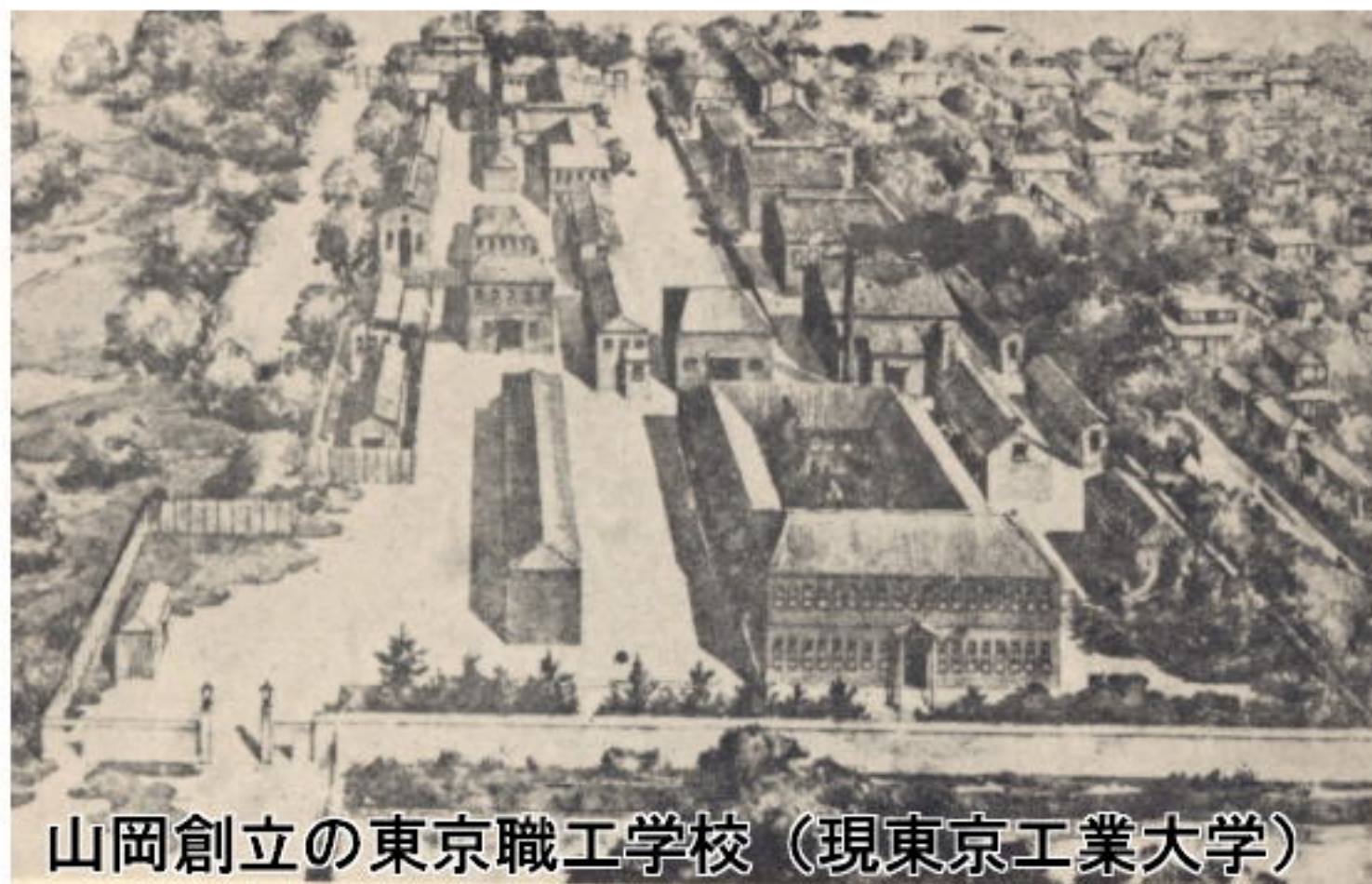


山岡次郎

人絹を初めて日本に紹介した山岡は
明治染織界の有力指導者であった



農商務省技師時代には各地の織物産地を指導した



山岡創立の東京職工学校（現東京工業大学）

人絹王
西野藤助



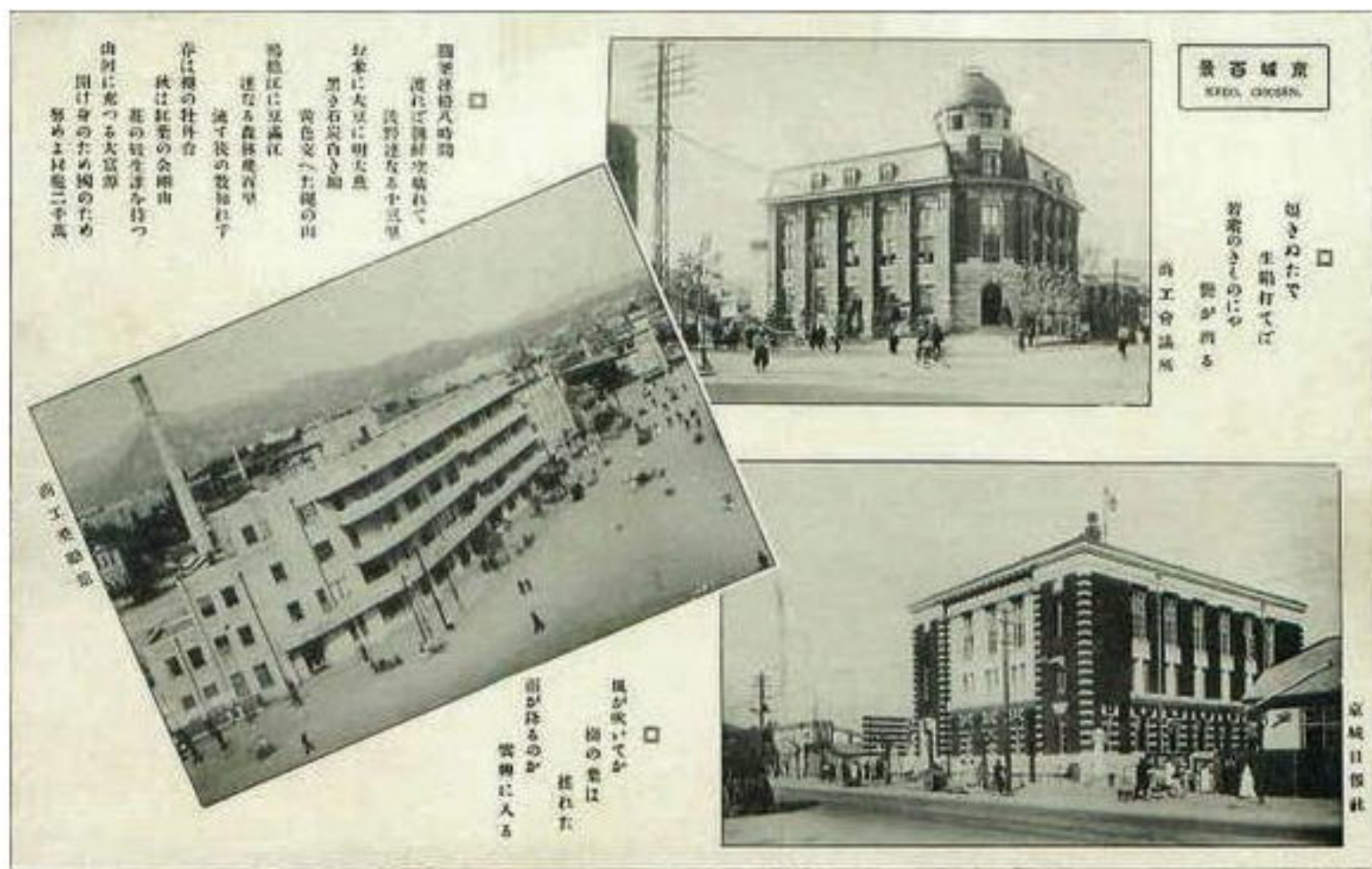
新築記念

昭和十二年五月



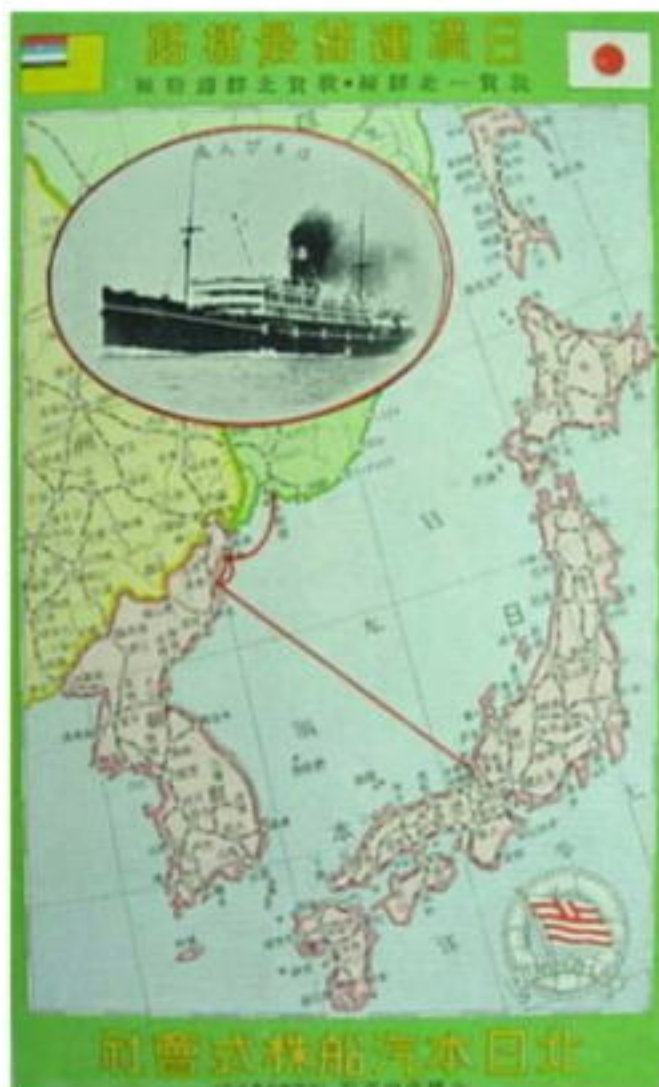
會員組織
福井人絹取引所

京城



清 津

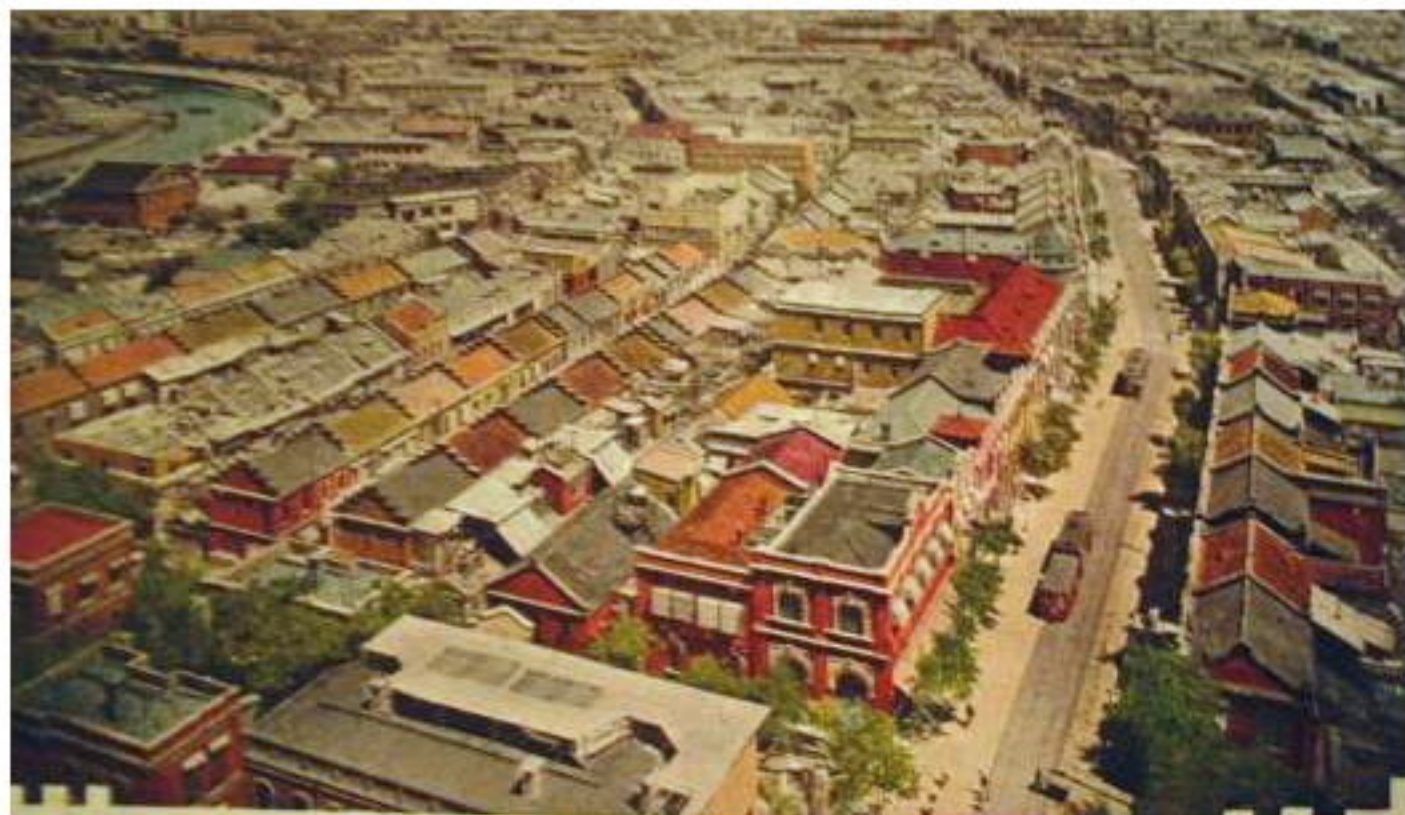
敦賀航路絵葉書



清津港付近 ↑

清津市街 ↓



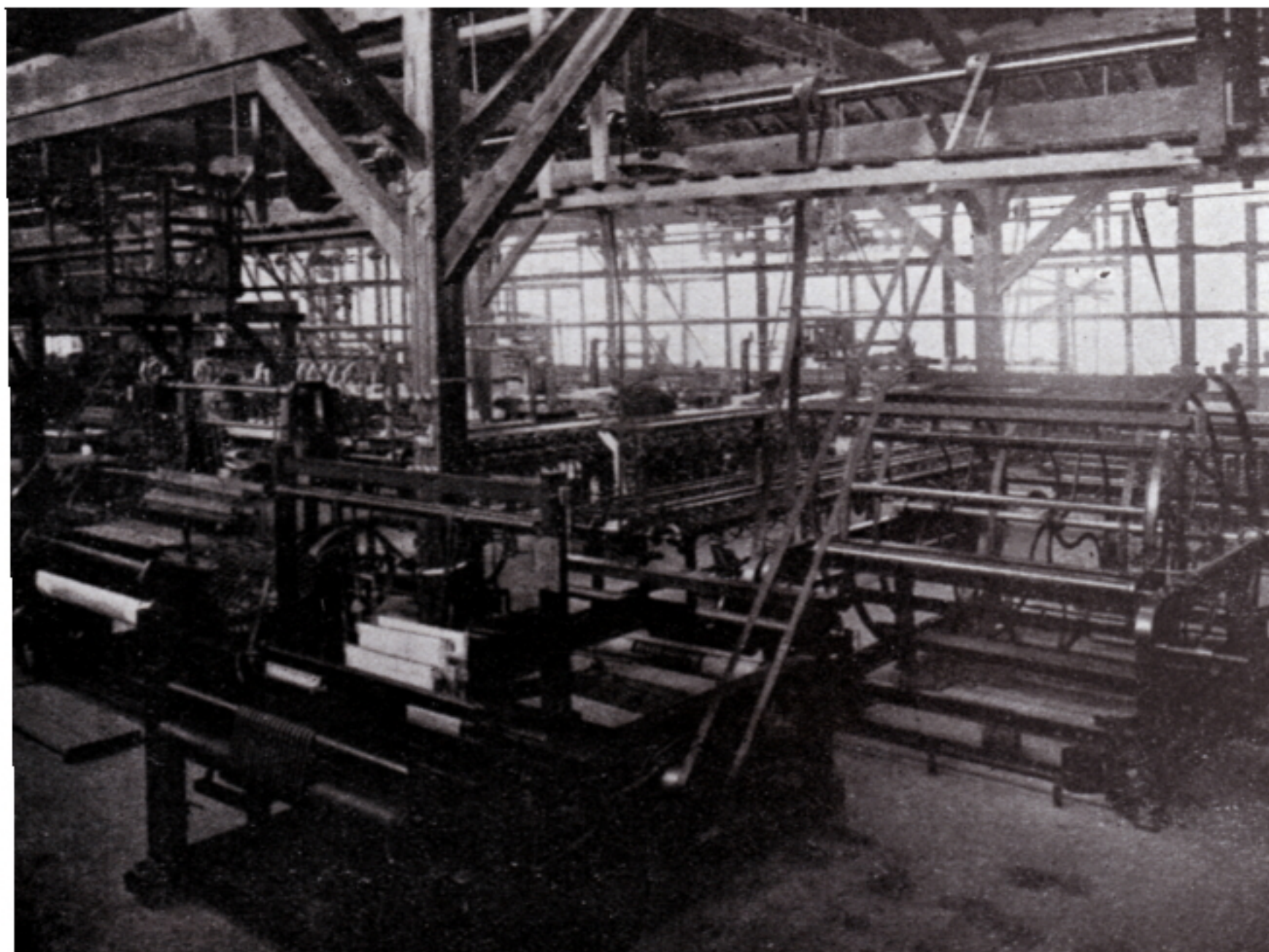


天 津





伊勢技師と大正期の工業試験場



奉 天

奉天駅前→

奉天市街↓



本縣人絹織物の

對滿進出前途洋々

於奉天の批評座談會

小泉駐在員報告

本縣人絹織物の滿洲國進出は、近日、滿洲國境內にあるが、本縣滿洲駐在員小泉氏が主催して去る九月八日奉天市において開催した、人絹織物販賣會及び本縣人絹織物の紹介と批評座談會の結果、本縣産絹織物の滿洲進出の前途は、北支、山東に輸出せらるべき可能性が、滿洲國の研究に止まるべき性質のものに非ずして、目標は、寧ろ南方にあることを暗示された、十五日組合あて報告があつた、なほ同氏が主催して開催した、本縣人絹織物の紹介と批評の座談會は、頗る盛大で滿洲國の出産者は奉天省公署、滿洲人十八名、日本商人六名その他六名で三十名の多數に上つた、席上小泉駐在員が本縣人絹織物の性質と優秀さを一時間、わたり詳述したことは、非常に影響が、本縣産絹織物の認識を深めさせたこと、これに對して、座談會主人渡邊氏が、一同を代表して本縣産人絹織物の性質を認め、將來の發展を期待しその援助を願ふまいと、極めて友好にその所見を述べたのは同會においてのべられた本縣人絹織物に對する莫なき批評は、

一、本縣産物として現在滿洲國に欠けたる所なきかの質問に、

先づ山分はないけれども、染料物の如きは色彩、生地、柄合等のよろしきを導ば最も有價で一層研究を要む、

二、將來の滿洲國産物に對して、朱子地は要るものを歡迎、固く清らかに任上げたものまた、堅実な生地として好かる、無闇の朱子生地は、常に秋服と稱し、短毛も、毛の如き柔なることを要し、弾力に富みたるものを希望す、

從來高級絹織物は上海にて買入れてゐるが、將來は發行を奉天にて作り出し、滿井縣の産物および

滿洲國から 人絹織物照會

近來著しく増加す

本縣輸出人絹織物の奉天仕向地とされてゐる印支、關東、横濱等が、最近で禁止の關税を設定し、本縣品の運送に努めてゐるので、本縣としては有力なる市場が失はれて行くので、縣下絹織物業者は、これが開拓策として同市場に代るべき大市場を新國家滿洲國に建設すべく計劃し、奉天市に開設された滿洲見本市を機會に、本縣の有力者は多岐にわたるが、設置せる奉天駐在員

その染色技術によりて、全滿洲のみに甘んぜず北支那、山東方面に輸出する因を作られたし、そのため絹織物模倣機等は充分に研究された、

とその他重要な諸問題に關して意見を交換した、これによつて、關税低下による生産の減少その他一般に購買力が増加すれば、本縣人絹織物の前途は洋々たるものがある、なほ批評會席上に出た見本は百十種であつたと



小泉駐在員と滿州市場開拓

●公州電氣株式會社

福井市佐久良下町一五

設立 大正十一年五月 總

株數二千株 決算期五月

十一月

資本金(拂込済) 一〇〇、〇〇〇

(長)西野市兵衛(專)伊藤 仁作

(締)山田 重義 柳原九兵衛

金 閏煥 金 甲 淳

(監)角脇 林藏 山南庄次郎

支店 忠清南道公州郡公州

面錦町七九

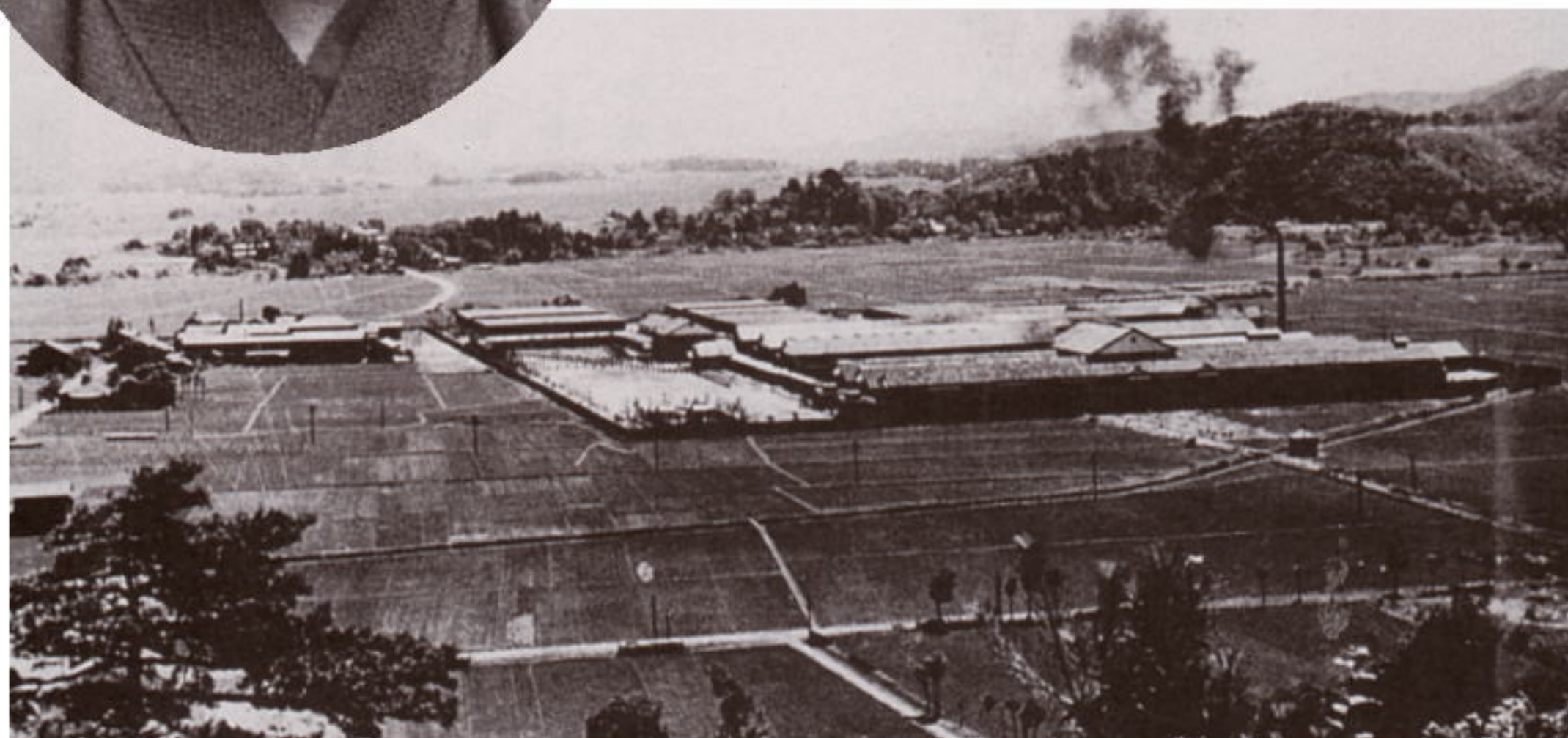
河野水電の経営など県内の電力事業に関わった伊藤電機グループは
県内有力者の出資を募り、朝鮮忠清南道公州で発電事業に進出

ふよりは
が良く富
類も千五
半は家屋
る、本縣
格者の類
力く高
幾多、縣
に見てゐ
がある



酒井伊四郎と

昭和初期の酒伊殖産
(酒伊繊維工業前身)





滿洲豆稈パルプ株式會社



東北方ヨリ工場ヲ望ム

一、資 本 金 壹 千 萬 圓

二、營 業 種 目

人絹パルプ、製紙パルプ、紙類ノ製造並販賣
大豆稈パルプヲ原料トスル糸及織物ノ製造並ニ販賣

三、本社工場並營業所所在地

本社並開原工場 滿洲國 奉天省 開原鐵西
新京出張所 新京特別市日本橋通り九二番地
東京出張所 東京市麹町區丸ノ内一ノ二、三菱仲廿八號館
東京研究所 東京市蒲田區古市町二八二番地

四、役 員

取締役社長	酒井 伊四郎	若杉 三宅
常務取締役	波長 次郎	竹下 勘右衛門
取締役	菊池 文吾	上坂 己之輔
	松島 鑑	清水 克郎
	アドルフ、ゲルツ	熊田 爲三郎
監査役	酒井 正二	日高 爲三郎
	平田 瑞穂	
	高亮 範	